

私の大事な

年金

ねんきん

今年8月、公的年金の「財政検証」が公表された。5年ごとに人口や経済の動向を反映して年金財政の見直しを作成し、その健全性を検証するというもので、これを受けて社会保障審議会年金部会では2020年制度改革に向けた議論が本格化している。私たちの老後や、万が一の生活を支える大事な年金。少子高齢化・長寿化、働き方の多様化が進む中で、誰もが安心できる年金制度を維持するには何が必要なのか。一緒に考えてみよう。

ポイントは
2つ

1

働いている人、みくんなが
厚生年金に入れると

good!

適用拡大

2

受け取る年金で
生活できると

Happy!

基礎年金の
給付改善

ひびく...
まだ先...と、思っていますか？

率直な
街の声を
ひろって
みました。

大学生の**B**さん



- 20代
- 賃貸・一人暮らし
- 国民年金

- ◆就職氷河期で、大学卒業後、有期契約で働き続けている
- ◆厚生年金には加入できないと会社に言われた
- ◆貯金もないし、将来、基礎年金だけしかもらえないなんて...家賃も考えると年金だけでは暮らせない

- ◆年金制度は破綻するという記事を見た
- ◆どうせ私たちの老後には、ほとんど年金はもらえないんでしょう?
- ◆保険料を払っても損するだけだし、興味ない関係ないよね

主婦の**D**さん



- 30代
- 持ち家・夫(厚生年金)と同居
- 国民年金

- ◆社会保険料の負担がないように調整しながらパートで働いている
- ◆保険料を払うことになると手取りが減るのが心配
- ◆夫の年金もあるから大丈夫と思っているけど...

有期契約労働者の**A**さん



- 40代
- 賃貸・一人暮らし
- 国民年金

正規労働者の**C**さん



- 50代
- 持ち家・妻と子と同居
- 厚生年金

- ◆大学卒業してから今の会社で働き続け、保険料もちゃんと払ってきた
- ◆ねんきん定期便を見てびっくり! 老後に受け取れる年金額がこんなに少ないなんて!!
- ◆公的年金だけでは心配だから、他の資産形成なども...でも子どもの学費もあるし、家のローンも...

年金受給者の**E**さん



- 70代
- 持ち家・一人暮らし
- 基礎年金6万円を受給

- ◆基礎年金しかもらっていないマクロ経済スライドとかいうもので、これから減っていくと聞いた
- ◆貯金を取り崩して生活しているが、2000万円必要という報道もあったし、これから生活が苦しくなっていくのが心配だ

「老後の幸せの鍵」は「年金」です

良いしくみをつくるのは、みなさんです!!

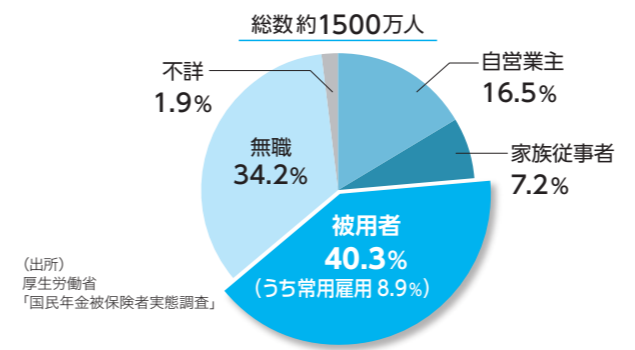
誰にでも
必ず老後は
やって来る

厚生年金の適用拡大を

ポイント1

働いているのに国民年金に入っている人はどのくらい?

■国民年金(第1号)被保険者の就業状況(2017年調査)



なぜ、働いているのに厚生年金に入れないの?

それはこんな要件があるからです。

- ① 週労働時間20時間以上
- ② 月額賃金8.8万円以上(年収換算で約106万円以上)
(所定労働時間、所定内賃金で判断し、残業時間(代)は含まない)
- ③ 勤務期間1年以上見込み
- ④ 学生は適用除外
- ⑤ 従業員501人以上の企業等
(従業員500人以下の会社で働く人も、労使の合意があれば加入できる)

厚生年金には様々な適用条件があります。また、従業員が常時5人以上いる個人の事業所の一部の業種は適用事業所となりません。

国民年金と厚生年金ではこんなに違うんです。

■保険料と年金額のモデルケース(報酬月額88,000円、40年間) ※金額は月額

(適用前) 国民年金		(適用後) 厚生年金保険	
支払額	受取額	支払額	受取額
保険料(本人) 16,000円	基礎年金 65,000円	保険料(会社) 8,000円 + 保険料(本人) 8,000円	厚生年金 18,000円 + 基礎年金 65,000円

厚生年金適用のメリットは...

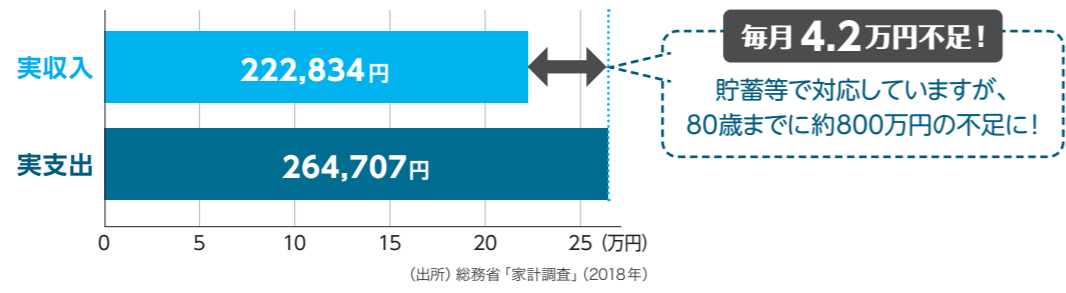
厚生年金保険料は会社と折半ですが、国民年金保険料はすべて自分で負担しなければなりません。また国民年金の場合、老後は基礎年金しかもらえませんが、厚生年金に入っていれば、その給付が上乗せされます。働く人にとって厚生年金適用のメリットはとて大きいのです。

基礎年金の底上げを

ポイント2

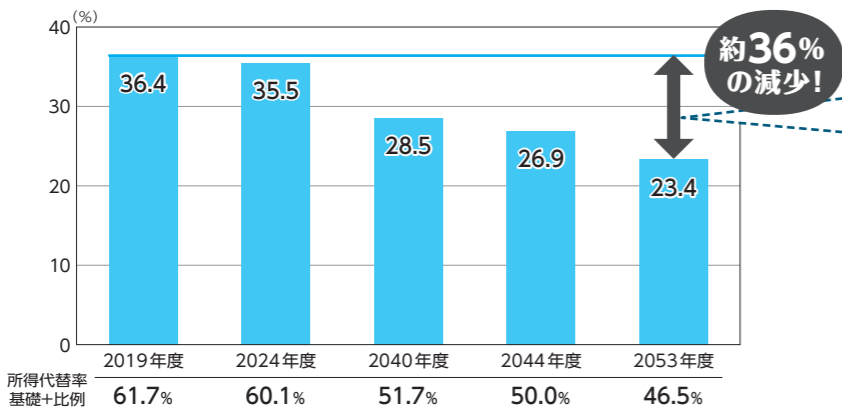
そもそも今のままの年金で生活できるの?

■高齢世帯(夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦のみの無職世帯)の家計収支



しかも! 受け取る年金は減るの!?

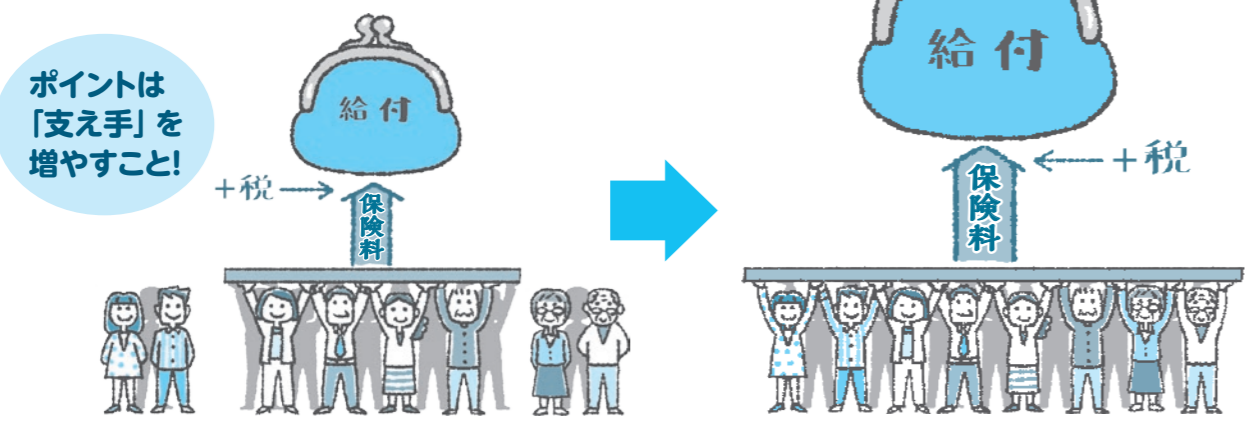
■基礎年金の所得代替率の見通し(2019年財政検証(ケースⅣ)より)



老齢厚生年金の給付は、基礎年金部分と報酬比例部分で構成されていますが、2019年財政検証では、マクロ経済スライドの発動により、特に基礎年金部分の所得代替率が大幅に低下し、2053年には約36%減となる見通しが示されました。

※所得代替率は、公的年金の給付水準を示す指標。年金を受け取り始める時点における年金額が、現役世代(男性)の平均月収(手取り)額に対してどの程度の割合を示すもの。

どうしたら受け取る年金を増やせるの?



だから、連合は、基礎年金の底上げを求めています!

基礎年金の給付水準を引き上げるためには、基礎年金を支える人を増やす必要があります。保険料収入が増加して基礎年金の財政が強化されれば、給付水準は下がりにくくなり、減る期間も短くなります。支える人(基礎年金拠出金算定対象者)の上限年齢引上げ(60歳から65歳に)を求めます。

実現すればこう変わる!

- ◆現状よりも基礎年金の給付水準が上がります。
- ◆マクロ経済スライドによって年金給付水準が低下する期間が短くなります。



だから、連合は、すべての働く人に厚生年金が適用されるよう求めています!

企業規模や勤務期間などの条件を撤廃するとともに、現在、個人事業主の場合に非適用となっている業種(士業、飲食サービス業など)への適用拡大などを求めています。

実現すればこう変わる!

- ◆厚生年金に入ると基礎年金に加えて厚生年金を受け取れます。また、医療保険の保障が厚くなり、傷病手当金、出産手当金も受け取れます。
- ◆働く人みんなが保険料を払えば年金財政が健全になり、年金給付水準の低下が抑えられます。

